てっぺんの葉っぱ

なりたい色になるために

6年　A・Hさん

僕は、毎日失敗ばかりしています。この「てっぺんの葉っぱ」という本の「マチ」も、失敗をしてしまっています。マチは、友達のユリアちゃんに言われ花瓶の水を窓から捨ててしまい、副校長先生にかかってしまったことで先生に怒られ、ユリアちゃんとケンカになってしまいました。

この本が伝えたいことは、相手を傷つけてしまった時、相手の気持ちを考えてみることが大事、ということだと思います。主人公のマチや、魔女ババの娘がしていたように、相手の立場に立ってみて、解決策を考えることが大切だと感じました。

僕も、考えることが苦手です。少し勉強してすぐに休憩してしまったり、家を出ないといけない時刻なのにまだテレビを見ていたりしてしまいます。また、他人に迷惑をかけてしまった事もあります。学校の授業中に行われるテストで自分と友達が早めに終わった後、何も考えずについ喋ってしまいました。その時は何も思っていなかったけれど、今考えると、周りのまだテストを解いている人からしたら迷惑だったかもしれないと思いました。

子供だけでなく、大人だって失敗することはあります。去年の夏、僕と母で音楽のイベントの予約をしていました。ですが、当日受付に行くと、「そのイベントは明日ですよ」と言われ、2人でトボトボと帰りました。僕は、大人でも失敗することがあったことに少し驚きました。母は、自分のミスにショックを受けていて、その日からカレンダーのメモが増えました。

ところで、この物語では、魔女ババの娘が草木染めの話をしています。草木染めは、「いつも同じ色にはならない」、「ピンクに染めるつもりでも、ベージュになる事もある」と言っています。「木や水の量を変えてみたり、つけて置く時間を長くしてみたり、他にも薬品を入れたり」することで、色々工夫を凝らして、何度も失敗を繰り返して染めたい色に近づけていくのです。これは、人も同じだと思いました。

僕は、失敗をしても、くじけずにたくさん考えていきたいと思いました。そして、また失敗してしまったとしても、どうすればよかったのか考えて、人生を自分のなりたい色に染めていきたいと思います。